

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.55)

「終わり良ければすべてよし」

・・・「戻って来いよ！」コールに涙して・・・

「始めた仕事は半分終わったのも同じ」・・・再びメキシコへ着任の挨拶を兼ねて・・・と、題して始まった本便りも、ボラッチョ氏のボランティア活動のミッションの終了とともに、終息を迎えることとなった。

JICA メキシコ事務所の幹部や配属先での最高責任者の出席以下、ほぼ全員参加して行われた、2年間の活動最終報告会も無事終わった。今回のミッションはメキシコの有名大学での講義活動が多かったため、それに例えれば、退官する教授が最終講義を行なったようなものであろう。

日ならずして、派遣先での仕事納めの日、社員全員と来賓者、100名近くの参加者のもと、市内中心街にあるホテルで、クリスマス食事が行われたが、老妻も招待されたので、あたかも盛大な送別会を実施してくれたようなものだった。

終了に当たり私が最後に壇上で感謝と別れの挨拶をしたとき、参加者から自然発生的に、ボラッチョ氏の名前を連呼するコールが沸きあがり、「もう一度戻って来いよ！」の言葉と共に、熱い抱擁とベソ(頬へのキス)を数多くの人から受けた。まさに心温まる情景で、期待されたことに感謝する気持ちと、職場の仲間への別れへの感傷が入り混じり、不覚にも臉が熱くなってしまった。

送別会で涙腺が熱くなったなどは、過去何10回となく経験してきた、会社内でのお仕着せの送別会では決して起きなかった現象で、私自身もこのボランティア活動に参加して、本当に良かったなど実感できた一瞬であったと思う。

このイベントでは、実に面白いハプニングが起きた。会場入場するとき参加者が箱の中から任意に番号を引いて、全員に何がしかの賞品が当たるくじ引きをするアトラクションがあったのだが、ボラッチョ氏は何とその時の最高景品である、32型薄型テレビ(日本製)を当ててしまったのである。

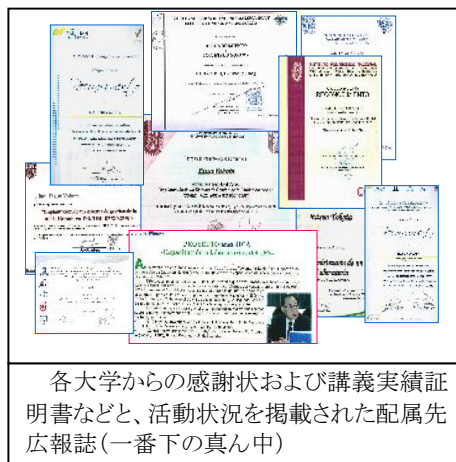
参加者一同びっくり仰天したことだろう。これは主催者が意識的に、コントロールをした「やらせ」でもなんでもなく、まったくの偶然の所作なのだが、まさに神様が最後にボラッチョ氏に与えてくれた、乙な演出だったのかも知れない。私は即座にそれを配属先に寄付することを申し出た。

これも全員から歓呼の声を持って、大いに喜ばれたが、交流の輪を作ってくれた仲間への少しばかりの恩返しだと思っている。

スペイン語の諺に、「**Si el final concluye bien, todo ha estado bien.**」(シー エル フィナル コンクルーエ ビエン トード ア エスタード ビエンと発音し、直訳は、「もし最後が上手く終われば、すべて



立派な特別製の陶器の感謝状を、配属先から授与された。・・・最終報告会の席上で



各大学からの感謝状および講義実績証明書などと、活動状況を掲載された配属先広報誌(一番下の真ん中)



配属先のツートップ。向かって右マリベルさん(トップ)、左ベロニカさん(前上司、現在ドイツの環境関係国連機関へ出向中も出席)の二人の熟女の熱い挨拶を受けた

が良かったことだ」という意味である)というのがある。日本語では有終の美を飾るなどの言葉が思い起こされる。

前述のエピソードなどはこの諺に当たりそうだが、この諺の本来の意味を考えてみると、日本人の評判を落とさないためにも、「それは知りません。そのことはできません。すみません」の3大禁句は使わず、配属先の要請には最大限応えてきたと自負しているものの、私のミッションは成果という面では、すぐには現れてこず、諺どおりになったかどうかは、これからのメキシコの推移を見守るしかない。

しかし自分自身の側に立って考えると、社会に少しでも恩返しをしたいという思いで、会社を辞してまで参加した前回のミッション、そして今回のミッションを終えるにあたって思うことは、男は人生を過ごす間に、何処かで一度ならず冒険してみたいと考える人も多いと思うが、私にとって自らの意志による海外勤務は、そのたった一度の冒険だったのかも知れないし、また自分に何が欠けているかを、はっきり認識する機会でもあったので、諺の通りだと解釈したい。

いつの日か自分が過去に仕事をして来た国々を再度訪問し、滞在していた当時と比較して、どの様に変化しているか、自分の過去の仕事の証を、自分の目で確かめて見たいものである。そのときこそ自分の成果が問われるときだと思っている。

テキーラの杯を心静かに傾けると、メキシコでの滞在の数多くの出来事など色々な情感が、頭の中を走馬灯のように駆け巡ってくる。



メキシコでのボランティア活動最後の挨拶

(2010年12月25日業務を終えた安堵感と、帰国へ向けた準備等色々な気持ちが交錯しています。長い間劣文にお付き合いいただき感謝いたします)